

ベヒナ・ギメルが行う授与の行為の模倣の中から、新たな識別が生まれます。ここで彼女はもう1つの光の特質を感じます。なぜなら、彼女の行為の特質が実際に**“創造の思考”**そのものであるためです。彼女は到達します。単に与えることではない、また単にクリエイターが彼女に与えたいと言う願望を実現させるためにある一定の部分を受取るのでもなく、その創造の思考とは、被造物を限りない喜びで完全に満たすことであり、そのあとに彼女は、自分が創造の思考を実現させるために、この光を受け取らなくてはならないことに気づきます。彼女は光の全部を受け取らなくてはならないのです。よって、ここで光はその中に入り、容器の全体を満たすのです。これは、**ベヒナ・ダレット**です。ダレットはヘブライ語アルファベットの**4番目**の文字です。

しかし、それはベヒナ・アレフとは全く異なります。見た目は同じですが、とても違うことがここで生じたのです。なぜなら、ここでベヒナ・シヨレシュ、アレフ、ベツ、ギメルそれら全てにおける行為は、自主的な行為ではありませんでした。これらは全てクリエイターによって行われた行為です。光の力と、その反応とこれら各々で創造されたその願望はクリエイターの行為によるものでした。このベヒナ・ダレットでは全く新しいことが起きます。これは**自立した願望**です。これはクリエイターが正確にそこに置いたものに成り、かつそれらを行う**自主性のある願望**です。よってここ、すべての光を受け取ると言う意図の中に**“創造の思考”**そのものとの**“形状の等価”**の可能性が存在します。この時点で被造物にとってのすべては変わります。ここには制限があり、願望の性質の中に変化が生じます。彼女がしてきたように、直射光を受け取ってこれらを自分の為だけに達成しようとしてきた代わりに、彼女は最後の識別を通じてクリエイターの偉大さを感じます。その時彼女は、もう直射光(創造を執行する部分)を欲しがらなくなり、クリエイターの知性(創造を考える部分)が欲しくなります。彼女はクリエイターとの形状の等価に到達したいのです。

実は、それが**クリエイターの最初からの意図**だったのです。よってここに、創造におけるその他のすべての始まりと、自立した被造物が存在しているのです。よって、この**4番目のフェーズ**を**セフィロートでマルフット(Malchut)**と呼びます。マルフットは**“王”**または**“王国”**という言葉に語源があり、その意味は、ここにある**全てのものが願望(欲)で支配されている**と言うことです。

ここでは自身のためだけに受け取らないと言う新たな意図が現れます。なぜなら、**彼女はクリエイターの偉大さを感じ、受け取ることを恥じる**からです。このことを**第一の制限**(ヘブライ語で**チムツム・アレフ Tzimtzum Aleph**)と呼びます。そしてこの時点から、彼女は創造の行為ではなく、創造に隠された思考を追い求めるようになります。よってここに**マルフット(創造の始まり)**があり、この容器(4番目のベヒナ)を**“オラム・エイン・ソフ”(Olam Ein Sof)**と呼びます。その意味は**“終りなき世界”**です。すべての世界と魂はここから展開します。創造のどの部分もこれと全く同じ形式を用います。このプロセス、このマクロなテンプレートは、4文字から成る神の名称でもありません。

ヨッド(Yod)の先っぽ、

ヨッド(Yod)、

ケイ(Key)、

ヴァヴ(Vav)、

そして下のヘイ(Hey)、

ハヴァヤ(HaVaYaH)です。

この名前は、この力の一連の働きを表しています。カバラにおけるすべての名称と言葉は物理学の公式のようなものです。それらは、**光と容器の関係性**について説明しているのです。

よって今や、カバリストが上層から下層までの地図を私達に与えてくれたことが分かります。それは、私達がどの様に存在するようになったのかを表すだけではありません。それは、**人が上層に上がる時に到達しなくてはならない状態**についても説明します。それは私達に、目的と根源とその道のりに沿った各所を与えます。そしてこれが、この制限を行った直後に被造物がすることです。それは自立した願望として、創造の思考の獲得を可能にするために各世界のシステムを構築しはじめ、**クリエイターと同等になる**のです。

これはライトマン博士からの引用文です。

「人は自分の内面にすべてのものを含んでいます。もしも、人が是正(修正・修繕・更生)を行うなら、それは被造物の全体がそれにともないながら、

クリエイターに近づくことを意味します。よって人は、**自分自身だけを是正しなければならないのです。上昇する人は、自分と一緒にすべての世界を持って上がります。これが、すべての世界が人の為に創造されたと言われることの結縁なのです。」**